



・「ハートセンター開設の挨拶」

病院の沿線の桜も、満開を迎えようやく春がきたと実感しておりますが、皆様いかがお暮らしてでしょうか。さて、当院では高度循環器専門病院として名古屋ハートセンターと新たに名づけさせていただきました。今まで同様に心臓カテーテル検査、治療そして心臓血管手術を中心に多くの患者様に対して満足のいく医療を提供する所存であります。

また近隣のクリニックはもちろん、遠くからの紹介患者様の受け入れをスムーズにするため、佐藤さんをハートコーディネーターとして迎えしました。我々の至らないところを補っていただき、患者様に対してはいろいろな面でのお世話をさせていただけることと期待しております。

さらに、情報公開のひとつとして当院での心臓大血管手術の客観的な手術成績を公開しました。紹介していただける循環器内科の先生方、あるいは手術を不安に思っている患者様及びその御家族様に、当院での手術成績を客観的に公表することにより、信頼していただけるものと思っております。たとえば予定での冠動脈バイパス術の死亡率は0%ですが、状態が悪化して緊急で手術した場合は18%と、緊急手術の危険率はやはり高くなっております。発作を起こす前に、治療を行なうことの重要性を痛感しております。

この手術成績の公開は季節ごとに更新しており、職員一同、常に緊張感を持って手術にのぞんでおります。ホームページでもみられますが、資料御希望の方は、当院地域医療部までご連絡ください。

ハート通信での患者様の体験談は私たちにとって非常に励みになります。

また、秋には昨年同様術後の会をさせていただきます。

ますます、皆様がお元気で活躍されることを心からお祈り申し上げます。

心臓血管外科部長 大橋 壮樹



・「徳洲会病院」との出会い

70代の坂道も終わりに近づいた秋の日。毎年子供の所で過ごし、江南・一宮・春日井、特に恵那・飯田方面に紅葉見物する予定で出掛けました。道中、道を間違えたのか、徳洲会病院、大橋先生のところに行くことになりました。

私の田舎は、人口6000人位の小さな町です。2、3年前からときどき胸が苦しくて医者にはかかっていたのですが、はかばかしくなく、この機会にと、娘の近くの内科医に行き、紹介されたのが大橋先生との出会いです。

カテーテル検査の結果、即入院。詳しい説明をきいて、何の不安もなく「冠動脈バイパス手術」を受け、3日位で4階の部屋に戻りました。熱が出て食事ができず、ちょっと心配した日もありましたが、その時坂本先生が、「病院食に戻るまで好きなものを食べてみたら」のひとりで食べたアイスクリームのおいしかったこと。大橋先生のにこっとした顔、坂本先生のにこっとした顔、田崎婦長さんのにこにこ顔。いつもやさしい言葉で元気づけてくださったことは忘れられません。何のお礼もできませんが、私の元気な姿をお見せすることで「お礼」に代えさせていただけます。

また、このことで、子供たちとの絆が一層深まったことを実感しました。暖かい日をえらんで、ちょっと田舎に帰ってみました。体調を試す気持ちもあったのですが、いつもの道がすいすい歩いてとてもいい気分でした。

春を待つ心のように、明るい希望を持って80路を迎えることは最高のよるこびです。



・無題

私は以前から喘息治療でK市民病院に年2回（春と秋）入退院を繰り返していました。喘息の発作はとっても苦しく、家に一人にいる時は、死んでしまうんじゃないかといつも苦しんでおりました。

ある日胸が急に苦しみ出して、心配性の私はかかりつけのY病院へ行きました。Y先生が「心臓の病気かも知れません。徳洲会に大橋先生がいるので紹介状を書きましょう」と言って下さり、すぐに心臓血管外科へ行き検査をしました。

検査の結果、すぐにカテーテルをするので今日は家に帰れませんと言われ、不安になりました。カテーテルを終えICUの方が家族の方に説明がありますと言うので嫁と孫娘に大橋先生の話聞いてもらいました。すると、心臓の血管が、太いのはともかく細いのも詰まっている事が判り、検査入院、6月29日にバイパス手術が決まりました。その間わがままな私にとっても親切にいただいた田崎婦長さん、坂本先生、四階南病棟のスタッフの方々に見守られ、無事7時間の手術が終わり元気になることが出来ました。

喘息の発作もなくなり、今では自転車にも乗れる様になり、友達と食事に行ったり買い物に行ったり楽しい日々を送っています。10月7日に千歳楼にて術後の会にも出席でき、大変楽しい思い出が出来ました。ほんとうに大橋先生、坂本先生、田崎婦長さん、4階南病棟の皆さん、リハビリの時にお世話になった木田さん、ソーシャルワーカーの細木さん、大変お世話になりました。ほんとうに言葉では足りないくらい感謝の気持ちでいっぱいです。わがままで心配性の私ですが、未長く見守って下さい。最後に毎日欠かさず病院に足を運んでくれた嫁と孫娘に心から感謝しております。大橋先生、いつまでもお元気で居られる様、健康と御多幸を日々祈りつつありがとうございました。



● 「冠動脈バイパス術を受けた夫の経過について」

12月1日珍しく自分から徳洲会を受診すると言うのでタクシーを呼んで行かせました。屋近くに電話があって「これから心臓のカテーテル検査をしてもらうから家族に来る様に言われたので来てほしい。大変なことになったようだ。」急いで病院に行き、外来からICUの前に案内され検査の終わるのを待ちました。

夫は柳に雪折れなしのたとえの様に、長い年月を送って来ました。元来お医者様嫌いで、受診については本人にまかせていました。ここ1～2年は少しの坂道でも息切れがするからと少しでも遠廻りをして坂道避けていました。平成12年11月末、私が外出から帰ると、冷や汗が出て苦しかったと下着を替えて就床中でした。その頃時々胸痛や脊痛、肩凝り、あごの下の痛みなどあって、サロンパスで一時凌ぎをしていました。今から思えば心臓の発作があって徐々に血管がつまっていったのでしょうか。

検査が終わり暗い部屋に呼ばれガラス越しに見えた夫は車椅子に掛けていて、先ずは安心しました。先生が映像を見ながら説明してくださいました。右冠動脈が上の方でつまって黒い影をして曲がっていて、先の方に血液は流れていません。そのほか、左の方も2～3ヶ所つまっているとの事です。働いている心臓は、先の細い細いところまで規則的に血液は流れ頑張っていることがわかりました。そして右足の動脈も血液の流れが止まっていた。大変な事になる前にバイパス手術をするようにと告げられました。肺の既往症もあるのでなるべく負担の少ない方法でやります。入院期間は3週間。足の方は1週間位です。今日は検査もあるので1日入院してとの事で夫はICUで少し休んで4階の病棟に入院しました。4階で婦長さんよりハート通信を渡され、参考のために見ておいて下さい、と。5階の相談室で費用の面で相談する様にと紹介され身障手帳と更生医療の申請の説明を受けました。夫もいよいよ身体障害者なのだ認識しました。種々検査を受けて手術は12月21日と決まりました。

12月6日外来検査 身障手帳、更生医療の申請書類も揃いました。

12月13日外来 肺の方は思ったほど悪くないので心配しなくてよらしいと。

12月18日入院 何も変化なく過ぎてゆくので手術しなくても良い様な気分だと婦長さんに話したら、皆さんそう言われますとの事。

夫は呼吸のリハビリ、腹式呼吸、胸式呼吸、胸部の運動等をしてながら何の心配もなく淡々として手術の日を待っている様に見えました。私の方は先生からの説明やハート通信などで手術に対し理解もして不安のないはずなのに不眠状態が続きました。夫の気持ちを思いやり、できる丈強く振舞っていました。

いよいよ手術の前日、午後3時より先生から説明を頂きました。バイパスの位置、下肢静脈を使えたら使います。人工心肺装置使用、出血に備え輸血の準備をします。万一の時のリスク、心不全、出血、一時的に脳梗塞、感染など・・・お聞きしているうちに恐ろしくなり、もう止めたいとの気持ちが一瞬脳裏を過ぎりました。先生も言っておかなければならないからおっしゃっているのだと思い直し、夫の方を見る事も出来ず、唯々お願いをしていた様でした。手術終了予定夕方5時（大変な手術だと思いました）次の朝目はさめています。一番苦しいのは4日目頃です。ICUに4日ほどいて病棟に帰ります。以上で終わり。

12月21日手術当日前朝7時に病室に行き付きました。「明日朝面会に行く時には目を明いていて」と言いましたら「永眠しているかも」と冗談？を言える余裕もあるのかと私も気を強くして前処置の終わった夫を手術室の前まで送りました。

予定時間の夕方5時を病室で堪え忍んで待ちました。4時50分頃連絡があってICUに行き、先生から無事に終わった事、バイパス4本、輸血の必要はなかった事を伺い、先生を始めスタッフの方々には本当に長時間に渡り有難うございましたと感謝の気持ちでいっぱい御礼申し上げます。

翌朝8時面会、ベットに坐っているのびっくりしました。苦しそうで話そうとするので無理しなくてもと言ったら、痰が出易くなるから話した方が良く看護婦さんから聞きました。屋にはおかゆが食べられるかもと。8時と3時の面会毎に回復している事がわかりました。密度の高い看護で経過も良く予定通り12月25日に病棟に帰ることが出来ました。

4階病室に帰った夜は、予測通り創部痛が大分苦しんだとの事でしたが私は2～3日後に知りました。私に心配させないようにとの心遣いの方でした。大橋先生、坂本先生の毎日の回診で元気をつけて頂き、婦長さんを始めスタッフの皆様から温かくお世話を頂き、順調に回復し年明け1月12日退院させて頂く事ができました。厚く御礼申し上げます。まだ創部痛が残っておりますが、個人差の問題との事で気長に治したいと思っております。

入院案内に、生命を安心して預けられる病院、健康と生活を守る病院とありましたが、受付の方も親切ですし、全体の連携も良く徳洲会の理念のもと実践して頂ける事を有難く思っております。



● 無題

昨年、暮れに鼻よりの出血のため、当病院に救急車で入院いたしました。大変お世話になりました。お陰様で正月15日に退院できました。退院の間際になって心臓に動脈瘤があることがわかりました。驚きました。以来、通院で治療してまいりました。毎日主人の顔色を見ての生活でした。先生からも手術するように勧めて下さいましたが、主人は絶対しないとの意志が強く心をいためておりました。

知人のお話により当病院で心臓の手術をして元気に復帰されておられることなど知りました。又、息子の上司の方が京都の徳洲会病院で、心臓の手術をされ良い結果、良い印象などの例を聞きまして、主人もその気になりました。そして、大橋先生を信頼申し上げてお任せ致す決心を致しました。

手術前には、先生よりわかりやすい説明などもあり納得することができました。又、ケースワーカーの方の親切で行き届いた諸々の手続きのことなど、ご指導下さいました。本当に思いがけないことでありがたいと思えました。入院中も婦長さん始め多くのスタッフの方々の手厚い看護をいただき約1ヶ月で退院することができ夢のようでございます。この手術でいただきましたこの生命を大切に生きていと存じます。

大橋先生、スタッフの方に出会えたことを神様に感謝すると共に、心よりお礼申し上げたいと思えます。本当にありがとうございました。「生命だけは平等だ」の徳田先生の言葉に深く感銘を受けました。大好きな言葉でございます。